



見つけたのは 究極の持続可能な 農園だった

あなたの街でもミツバチやトンボが減ってはいないだろうか？それは平成に入ってから登場し、今や最も多く使われている「ネオニコチノイド系農薬」の影響があるかもしれない。

虫どころか、宍道湖ではウナギやワカサギに、佐渡ではトキにも…？その謎に挑んだ大学教授たち。さらに人への懸念も浮上した。化学農薬や化学肥料に頼らない有機農業を取材し始めると、究極の持続可能な農園=サステナ・ファームに遭遇した。えっ？

サステナ・ファーム トキと1%



「TBS ドキュメンタリー映画祭 2023」出品作品

監督：川上敬二郎 [69分]

1回目上映 / 11:30~ 2回目上映 / 13:30~

監督からのメッセージ

農業は、これほど喫緊で地球規模の重要なテーマなのに、素人にとっては難しく、じゃあ持続可能な農業として、他にどんな選択肢があるのか？ オーガニック野菜とか有機農業ってそもそも何だっけ？ 実は私も数年前まではほとんど知りませんでした。妻が近所の小さなレンタル農園で化学農薬も化学肥料も使わない有機農業を始め、時々私も手伝うようになり、農業が一気に身近なテーマになったのです。そこから最先端の農業や研究の現場にも足を運ぶようになりました。取材を進めると、驚きの連続でした。なぜEUで禁止され

ているネオニコチノイド系の農薬が日本では使用可能なのか？ 一度は絶滅したトキやコウノトリの復活劇の裏に農薬規制があったことは、なぜあまり知られていないのか？ そしてそんな農薬によるヒトへの影響は…？ さらに、なぜ日本の有機農業の割合は1%にも満たず、世界的に立ち遅れたままなのか？ 今回の作品づくりでは、そんな率直な疑問と素人目線を大切にすることを意識しました。この映画をぜひ多くの方に見てもらい、一緒に農業の未来の可能性を考えをきっかけにいただけたらと願っています。



監督
川上敬二郎
PROFILE

1973年東京都出身。1996年TBSテレビ入社。現在「報道特集」デスク兼ディレクター。担当した主な作品に「96歳の大学生」「炎の行者、北朝鮮へ」「8050問題」「スマホ依存の子どもたち」「教員の「ブラック勤務」問題」「ネオニコ系農薬 人への影響は」「有機農業の未来は？」。友人と「放課後NPOアフタースクール」を設立（2009年に法人化。グッドデザイン賞やキッズデザイン賞を受賞）。立ち上げや活動について、2011年に『子どもたちの放課後を救え！』（文藝春秋）を出版。その後も子どもたちを取り巻く問題に関心を持ち、2019年6月ドキュメンタリー番組「ザ・フォーカス」で「いじめ予防」をOA。現在も取材を続け、TBS NEWS DIGで「いじめ予防100のアイデア」を連載。大幅加筆の上、ポプラ新書で発売へ。